



▲金櫻神社大々神楽付面と衣裳

決意を新たに



この度、多くの市民の皆さまからご信任を賜り、第41代甲府市長として、三度市政を担わせていただくことになりました。

改めて、その職責の重さと使命の大きさに、身の引き締まる思いとともに、決意を新たにいたしました。

3期目となるこれからの4年間は、市民の皆さまの希望ある未来を約束するため、これまでの取組をさらに充実・発展させ、「こども育むま

ち」「輝き栄えるまち」「健康で安心して暮らせるまち」「グリーンで快適なまち」「持続可能なまち」を柱に掲げ、子どもへの健やかな成長や地域活力の創出、そして安心で快適な環境にやさしいまちづくりに取り組み、本市の明るい未来を切り拓いてまいります。

今後も、市民の皆さまの声や対話を大切にしながら、「ふるさと甲府」の限らない発展に向け、全力で邁進してまいります。

甲府市長 樋口雄一

「歴史文化財課」 ☎055(223)7324

こうふの無形民俗文化財

つた 傳え継いでゆく

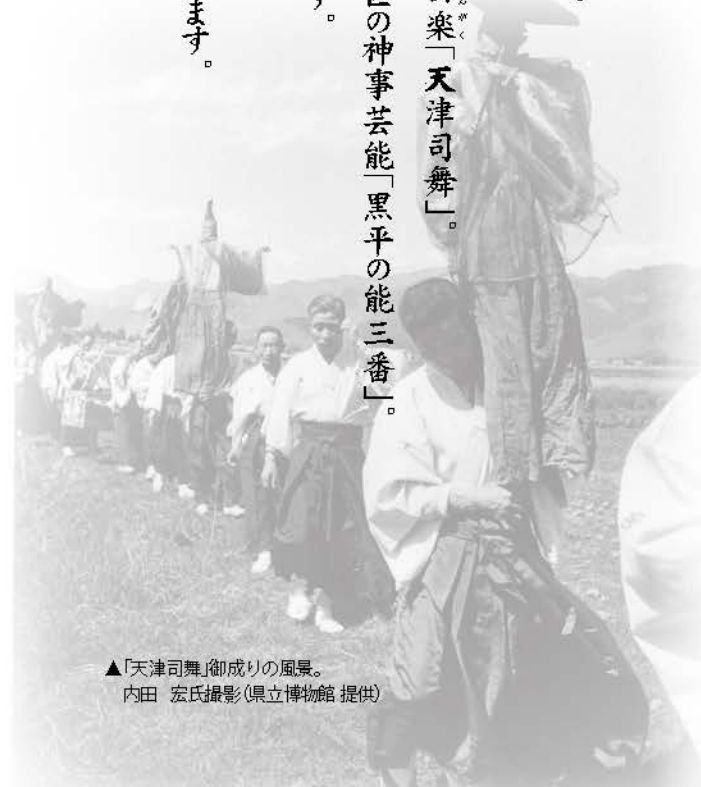
中世に起源をもつ傀儡(からくり人形)による小瀬地区の田楽「天津司舞」。

八百年以上も前から継承されてきたと伝えられる黒平地区の神事芸能「黒平の能三番」。

どちらも遙かな時を超えて残る甲府の無形民俗文化財です。

伝えるのも継ぐのも、人。演じるのも見守るのも、人。

私たちが次代につないでゆきたい貴重な民俗芸能をご紹介します。



▲「天津司舞」御成りの風景。
内田 宏氏撮影(県立博物館提供)



昭和51年、国の重要無形民俗文化財に指定。毎年4月10日の直前の日曜日に奉納される。

今年は
4/9(日)開催(雨天中止)

舞の名前は人形を操る手傀儡に由来するといふ説があります。祭事の日、小瀬町の天津司神社に保存されている御神体が、組み立てられ、魂を吹き込まれ、舞を奉納する下鍛冶屋町の鈴宮諏訪神社まで約1キロを御幸します。御成道と呼ばれるこの道は、昔は田んぼのあぜ道でしたが、今は小瀬スポーツ公園の中を通ります。笛や太鼓、ささらといった楽器を持つ人形、両手に木製の剣を持つ御鹿島様、赤色の着物をまとった御姫様、白装束の鬼

様の順に。このときは、顔に赤い布をつけたままですが、現地に着き、境内に御船囲いと呼ばれる幕が張られ、舞が始まると、ようやく顔を現します。観客は幕の外側。内側では、お囃子に合わせて一つの人形を数人が息を合わせて操ります。静かな舞から激しい舞へ。御鹿島様により、厄除けや招福のお守りとされる剣が観客へと投げ込まれてクライマックスに。また来た道を還っていきます。満開の桜とともに忘れられない光景です。

五穀豊穰を願い
披露される田楽は
日本最古の人形芝居

天津司舞 (てんじのまい)

国指定 重要無形民俗文化財



▲江戸時代前期の人形装束 (天津司の舞保存会 蔵 県立博物館 提供)



◀舞は甲府盆地の湖水伝説に由来する旨の記載がある『甲斐叢記(かいそうき)』(県立博物館蔵)。水害や戦争でたびたび中断となるも、復活し九百年以上伝承されてきたと伝えられる



昭和35年に指定。古くから小正月の道祖神祭に、集落内で祝い事があった家の座敷で舞われてきた。今は毎年春、金櫻神社の例大祭に併せて奉納される。

今年は上黒平 4/30(日)・下黒平 5/2(火)
11:00～開催(雨天中止)

県指定 無形民俗文化財

黒平の能三番(くろへらののうさんば)

舞手に神が宿る
祝福と邪気祓いの
神事芸能

甲府市の最北部、御嶽昇仙峽と金峰山の間
に位置する黒平地区。
ここに伝わるのが、黒
平の能三番です。上黒
平と下黒平それぞれに
伝わり、これまで村内
の長男によって口伝で継
承されてきました。そ
もその由来は平安時
代の末期に都落ちして
きた藤原房秀が伝えた
という説と、室町時代
末期に信濃国の藤原某
の朝臣により伝えられ
たという説があります。
出演するのは、鼻筋に
白粉をつけた千歳、切
り顎の白面をつけた翁、
黒面をつけた黒木尉。

太鼓や小鼓、笛が軽や
かにお囃子を奏するな
か、三者が問答を取り
交わしながら舞います。
長らく村外不出で
あったこの民俗芸能も、
過疎化により伝承者が
減ってきたため、今では、
住民だけでなく、黒平
と能三番を愛する人
によって支えられてい
ます。
毎年の金櫻神社例大
祭では上と下、両方の
能三番が奉納されま
す。新緑とともに、朱
色の拝殿としめ縄が神
聖な舞を引き立てて。
鮮やかな舞が臉に焼き
付きます。

▼過日行われた「甲州の匠の源流 御嶽昇仙峽 日本遺産フェスト」での上演



▲金櫻神社での下黒平の能三番。少しだけご紹介



▲上黒平(上)と下黒平(右)では、翁ひとつとっても舞や衣裳、面、扇が少し違う。それぞれの魅力が奥深い

日本遺産に認定された御嶽昇仙峽の構成文化財でもある。詳しくはこちら▶



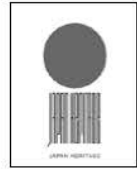
市指定 無形民俗文化財

金櫻神社大々神楽 付面と衣裳

(かなざくらじんじやだいかぐら
つけたりめんといししょう)

御岳町に鎮座する金櫻神社で春の例大祭に舞われる大々神楽と面、衣裳は、市の無形民俗文化財とともに、日本遺産に認定された御嶽昇仙峡の構成文化財となっています。神楽

は、奉納する場を清める舞から猿田彦舞、大山祇命、火伏せ舞など演目があり、衣裳は絹に金糸を織り込み、面も江戸時代から受け継がれたもの。豪華で厳かな神楽を堪能できます。



今年は4/22(土)・23(日)
10:00~15:00 開催(雨天中止)

昭和57年指定。金櫻神社大々神楽保存会。毎年春の例大祭などで披露される。



甲府町火消し (こうふまちびけし)

木遣り唄に合わせ、まずは火消し組が纏を回しながら登場。続いて、はしこ乗り。仲間が支える高さ6メートルのはしこの上でバランスをとり、見事な決めポーズを披露します。

昭和63年指定。甲府市消防記念会。毎年、県庁仕事始め式や甲府市消防出初式で披露される。



甲府囃子 (こうふばやし)

江戸時代から伝わるよさこえの郷土芸能。諸社の祭礼で屋台山車の上で演奏し、お祭りを盛り上げていました。文化財に指定された伝承曲は6曲。笛、大洞、締め太鼓、当り鉦で演奏されます。

昭和40年指定。甲府囃子保存会。毎年、信玄公祭りなど市内の祭事で披露される。

つた 伝える者から、つ 継がれゆく者へ

「広報スタッフブログ」内
【天津司の舞保存会のおふたりにお聞きしました】
詳しくはこちら▶

天津司の舞保存会代表にお聞きしました

九百年の歴史を絶やさぬよう

国の重要無形民俗文化財に指定された「天津司舞」。ここで絶やしてはならない、という強い思いが保存会の皆さんを突き動かしています。

子どもたちの中から、ぼくたち、わたしたちに任せて、と次代の継ぎ手が出てきてくれるのを心から願っています。

中沢さん

私は御鹿島様役で剣を観客に投げ入れるのが何よりの楽しみ。子どもたちに、地元にごんをすこいものがあるんだとわかってもらえれば。

松木さん

まずは、興味を持ってもらうこと。古いものと敬遠せずに、新鮮な見方でとらえて、伝統を愛さないでほしい。まずはぜひ、ご覧ください。



保存会会長
松木 紀一さん



代総
氏子 中沢 龍雄さん

◀これまでに地元、山城小学校で開かれた「天津司舞」お話し会。笛の音色に子どもたちも興味津々に耳を傾けていた



我こそは、という
継ぎ手は大歓迎